

MY COLOR

Vol. 12

きらっと*とよかわっ! 輝くひと

さまざまな分野で活躍する豊川市出身のトップランナーを紹介します

自分の可能性を信じて 記録に挑戦していききたい

〈陸上競技選手〉 碓井 由紀子 さん



碓井 由紀子
(うすい ゆきこ)

御津北部小学校、御津中学校、国府高校を卒業後、トヨタ自動車へ入社。1999年から出場している全日本マスターズ陸上競技選手権大会400mで16回の優勝記録を持つ



市陸上競技場で早朝から練習し、世界大会でのメダル獲得を目指す

昨年8月に開催された世界陸上北京大会のエキシビジョンマスターズ部門女子400mで50〜54歳の部に出場した、陸上競技選手・碓井由紀子さんにお話を聞きました。

中学までは卓球部に所属するも、担任の先生に「卓球には向いていない」と言われ、高校から陸上を始めた。「小・中学生時代の運動会は学年で3位くらい」で、いつも1位にはなれなかったが、インターハイへ出場する部活の仲間に負けたくない一心で猛練習。その甲斐あって、3年生のときに、400mでインターハイに出場した。「結果は準決勝敗退だったが、出場できただけでうれしかった」

高校を卒業後、スカウト

されたトヨタ自動車に就職。全国から集まった選手たちと切磋琢磨し、4年目には、全日本実業団陸上400mで念願の優勝を果たす。その後、結婚を機に退社し、陸上競技から引退した。

結婚後しばらくは、家事や子育てに専念。それでも、「暖かい季節になると、自然と体を動かしたくなった」という。36歳のとき、思い立って参加した小学生陸上教室で、マスターズ陸上のことを初めて知る。勧められるまま、軽い気持ちで地元の小さな大会に出場したところ、思いもよらず優勝。1年後には全日本マスターズ大会に出場し、そこでも優勝を果たす。「すっかりその気になって、私もまだまだけいけるじゃんと思った」と当時を振り返って笑う。

以後、47歳になるまで自己新記録を更新し続け、ピーク時には、45〜49歳の部でアジア記録を樹立。昨年、50〜54歳の部でも日本記録を樹立し、世界8番目のタイムで世界陸上北京大会への出場を決めた。結果は7位。「サポートしてくれた人のためにも、ゴールだけは切りたかった。1位とは5秒ぐらい離されてしまったが、1つ順位を上げたので満足している」

今でも市陸上競技場で、中学生の陸上部に交じって練習する碓井さんは「誰かと競わないとタイムは伸びない」と語る。今年の目標は、世界マスターズ陸上に出場し、表彰台上に上ること。自分の可能性を信じて記録に挑戦し続ける彼女を、これからも応援したい。